

南島文化研究所報

沖縄国際大学南島文化研究所
〒901-2701 沖縄県宜野湾市宜野湾二丁目6番1号

所長 田名真之
電話 098-893-7967

歴史の多様性が残る島：澎湖諸島

藤波 潔

(総合文化学部社会文化学科)

澎湖諸島は、台湾本島から西へ約50キロの台湾海峡に位置する。中核をなすのは澎湖島、白沙島、漁翁島の三島で、これらは橋でつながっており、全体として馬蹄形をしている。「台湾海峡に位置する馬蹄形の島」。これこそが、澎湖諸島の歴史に大きな影響を及ぼすことになった最大の要因である。今回、念願かなって現地を訪れる機会を得た。

澎湖諸島が歴史の表舞台に登場するのは、17世紀初頭である。アジア諸国との貿易関係強化を図るオランダが澎湖島に上陸し、要塞を建築して、東南アジアから中国・日本に至る海上交易の拠点を獲得した。のちに、明朝からの台湾領有提案に応じて澎湖島から撤退したものの、オランダによって澎湖諸島の地理的優位性が、世界の歴史の中に明らかとされた。

その後、澎湖諸島は一時的に鄭氏政権の支配下に入ったが、清朝によって奪還され、鄭氏

政権の支配する台湾島への前線基地となった。これ以後、澎湖諸島は清朝の軍事拠点となり、1884年の清仏戦争に際してフランス海軍によって陥落した後に、最西端の漁翁島に砲台が建設された。さらに、日清戦争によって日本統治下に入った後には澎湖庁が設置され、主要な軍事拠点として港湾が整備されるとともに、砲台の増強がおこなわれた。そして、アジア・太平洋戦争後には、大陸側の中華人民共和国との攻防における最前線基地となった。

今回の訪問では、上記の歴史に関わるさまざまな史跡を訪れることができた。澎湖島の南西部は、まるで龍の口のような入り江状の地形をしている。その下あごの先端部にある蛇頭山にはオランダの建築した要塞の跡（風櫃尾荷蘭城堡、写真1）、清仏戦争に際して当地で落命した2名のフランス兵の碑（法軍陣亡将士記念碑、写真2）、1908年の日本海軍練習艦松島の火災事故で亡くなった人たちを悼



写真1



写真2



写真3

む慰霊碑（日本松島艦沉船記念碑、写真3）が近接して存在している。これらの史跡は、澎湖諸島の人びとにとって、いわば「侵入者」に関するものであるが、史跡公園としてしっかりと整備して保存している。

また、日本植民地時代に建造された砲台跡（西嶼東堡壘、写真4）は現在歴史公園として



写真4

整備の真最中である（写真4）。また、旧澎湖島庁は改修の上澎湖県政府庁舎として（写真5）、旧澎湖島庁長官邸は「開拓館」として、それぞれ利用するなど、あらゆる史跡を地域の観光資源として活用している。この他にも、日清戦争後の日本軍の上陸地には、台湾の光復記念碑とともに上陸記念碑が設置されているなど、澎湖諸島が歩んできた多様な歴史を、そっくりそのまま保存し、活用していることが印象的だった。

今回の視察では、台湾の主要な離島だったからこそ蓄積された澎湖諸島の豊かな歴史を十分に、そして地形との関係を含めて実感を伴って理解することができた。久しぶりに台湾を訪れて、現地で歴史を感じることの重要



写真5

性を再認識できた。同時に、学生たちとともに、琉球諸島に存在する豊かな歴史の跡にも再度目を向け、現地を訪れ、現地で歴史を実感させる経験を積み重ねようとの思いを強くした。

2014年度人事

（任期：2014年4月1日～2016年3月31日）

所 長：田名真之（総合文化学部教授）

副所長：井村弘子（総合文化学部教授）

2014年度新規特別研究員

（任期：2014年4月1日～2016年3月31日）

- 山崎孝史 大阪市立大学大学院文学研究科人間行動学科地理学専修教授（人文地理学）
- 大家聡樹 社会医療法人かりゆし会ハートライフクリニック糖尿病内科臨床心理士（臨床心理学）
- 佐久本邦華 沖縄国際大学・沖縄経理情報専門学校非常勤講師（進化計算、沖縄芸術・工芸）
- 東畑開人 なかまクリニック心理士（臨床心理学）

2014年度会議及び議題

第1回所員会議

日時：2014年4月28日（月）午後4:20～6:00

場所：13号館1階会議室

報告事項

1. 2014年度執行体制について
2. 2013年度事業報告について
3. 2013年度予算執行状況について
4. 2014年度事業計画について
5. 2014年度行事予定について
6. 2014年度事業費予算について

審議事項

1. 2014年度新規所員の選任について
2. 2014年度所員の更新について
3. 2014年度特別研究員の更新について
4. 各種研究会の世話人の選出について

第2回所員会議

日時：2014年10月1日（水）～10月7日（火）

場所：電子会議

報告事項

1. 南島研セミナーについて
2. 第191回シマ研究会について
3. 2014年度韓・中・日協定研究所学術大会について
4. 第36回南島文化市民講座について

審議事項

1. 専任所員（出向者）の募集及び研究支援助手の公募要領について

第3回所員会議

日時：2014年12月8日（月）午後4:20～5:00

場所：13号館1階会議室

報告事項

1. シマ研究会について
2. 第37回南島文化地域学習について
3. 南島研セミナーについて
4. 第36回南島文化市民講座について
5. 2014年度韓・中・日協定研究所学術大会について
6. 大東諸島調査について

7. 韓国調査について

8. 台湾・福建調査について

9. 旧南洋群島調査について

10. 第19回窪徳忠琉中関係研究奨励賞について

11. 第2回北大東島調査報告会について

12. 今年度発行の印刷物について

13. 事業費予算執行状況について

審議事項

1. 2015年度事業計画（案）について
2. 2015年度事業費予算（案）について
3. 研究支援助手採用候補者審査委員について

第4回所員会議

日時：2014年12月22日（月）午後4:30～4:45

場所：13号館1階会議室

報告事項

1. 研究支援助手候補者審査委員会について
- 審議事項
2. 研究支援助手の選考について

第5回所員会議

日時：2015年1月19日（月）午後4:30～5:03

場所：13号館1階会議室

報告事項

1. 第19回窪徳忠琉中関係研究奨励賞について
- 審議事項
1. 新規特別研究員の選定について
2. 特別研究員の更新について
3. 副所長の退任について

第6回所員会議

日時：2015年2月24日（火）～27日（金）

場所：電子会議

報告事項

1. 研究支援助手の辞退について
2. 平成27年度予算の修正について
- 審議事項
1. 研究支援助手の選考について
2. 新規特別研究員の選定について

2014年度事業報告

第188回シマ研究会

日 時：2014年5月26日（月）午後4:20～5:50
 テーマ：グスク時代・古琉球の貨幣史に関する考古学研究
 講 師：宮城 弘樹 氏
 （南島研特別研究員・名護市教育委員会）
 コメンター：来間 泰男 氏（南島研特別研究員）
 司 会：上原 静 所員（総合文化学部教授）
 参加者：42人



講師の宮城弘樹氏

第189回シマ研究会

日 時：2014年6月16日（月）午後4:20～5:50
 テーマ：健康長寿の秘訣 ハワイと沖縄の超高齢者からのヒント
 講 師：ドナルド・クレイグ・ウィルコックス 所員（総合文化学部教授）
 コメンター：保良 昌徳 所員（総合文化学部教授）
 司 会：井村 弘子 副所長（総合文化学部教授）
 参加者：10人



講師のドナルド・クレイグ・ウィルコックス所員

第190回シマ研究会

日 時：2014年7月14日（月）午後4:20～5:50
 テーマ：近代沖縄と博覧会－近代システムと文化表象－
 講 師：栗国 恭子 氏
 （南島研特別研究員・本学非常勤教員）
 コメンター：来間泰男 氏（南島研特別研究員）
 司 会：石垣 直 所員（総合文化学部准教授）
 参加者：19人



講師の栗国恭子氏

第191回シマ研究会について

日 時：2014年10月27日（月）午後4:20～5:50
 会 場：13号館1階会議室
 テーマ：沖縄のサングワチャー行事を考える
 講 師：高江洲 敦子 氏
 （南島研特別研究員・本学非常勤講師）
 コメンター：波平エリ子 氏
 （南島研特別研究員・本学非常勤講師）
 司 会：儀間淳一（研究支援助手）
 参加者：26人



講師の高江洲敦子氏

第25回南島研セミナー

日 時：2014年10月18日(土) 午後0:30～2:30
 会 場：13号館3階302教室
 テーマ：東アジアの障害学のネットワークに
 向けてー中国の障害学から学ぶー

報告者・タイトル

- ①張巍 (Zhang Wei) 氏 (イネーブル障害学研
究所)
「中国の障害者運動」
- ②蔡聰 (Cai Cong) 氏 (ワンプラスワン障害者
文化開発センター)
「障害者権利条約のシャドーレポート」
- ③傅高山 (Fu Gaoshan) 氏 (ワンプラスワン障
害者文化開発センター)
「障害者権利委員会の総括所見と中国の障
害者政策の課題」

司 会：岩田直子 所員 (総合文化学部教授)
 通 訳：長瀬 修氏
 (立命館大学生存学研究センター客員
教授)

参加者：60人



セミナーの報告者(右側の4人)

第26回南島研セミナー

日 時：2014年11月8日(土) 午後1:30～3:00
 会 場：5号館3階302教室
 講師・テーマ

- 大木 充氏 (京都大学名誉教授)
「欧州評議会の言語政策と複言語・複文化
主義」
- ジャン＝クロード・ベアコ氏 (欧州評議会
言語政策部門顧問・京都大学客員教授)
「地域言語と少数言語ーヨーロッパの言語

政策の展望」

司 会：兼本 敏 所員 (総合文化学部教授)
 通 訳：上江洲 律子 所員 (経済学部准教授)
 デルバール・フランク氏 (琉球大学)
 参加者：33人



講師のジャン＝クロード・ベアコ氏

第37回南島文化地域学習について

日 時：2014年6月28日(土)～29日(日)
 テーマ：国頭村の自然と文化
 場 所：国頭村・名護市
 参加者：21人



辺戸岬にて講師と参加者の皆さん

第36回南島文化市民講座について

日 時：2014年11月29日(土) 午後2:00～5:00
 会 場：沖縄国際大学13号館301教室
 テーマ：植物からみたシマの原風景
 ～フクギに守られる村落～
 発表者・タイトル

- ①崎浜 靖 所員 (経済学部准教授)
「景観構成要素としての屋敷林」
- ②都築晶子氏 (龍谷大学文学部教授)
「『抱護』とは何かー風水と植樹ー」

③仲程路芳氏 (合同会社 葵農園会長)
「フクギの特性と活用法」

④田名真之 所長 (総合文化学部教授)
「王府の施策とフクギ」

コーディネーター: 宮城邦治所員 (総合文化学部教授)

共 催: 琉球新報社

参加者: 43人



2014年度湖南学研究院協定研究所国際学術大会

日 時: 2014年12月5日 (金)

場 所: 韓国光州市 全南大学校

テーマ: 近代東アジアの憂鬱

参加機関: 湖南学研究院 (全南大学校)
徽学研究センター (安徽大学)
南島文化研究所 (沖縄国際大学)

発表者: 田名真之 (所長)
「琉球処分と沖縄社会」
儀間淳一 (研究支援助手)
「近代沖縄における断髪騒動」



国際学術大会の参加者

第19回窪徳忠琉中関係研究奨励賞

該当者なし

第2回北大東島調査報告講演会

日 時: 2015年3月27日 (金) 午後6:00~7:30

講 師: 崎浜 靖 所員

テーマ: 北大東諸島の地理的景観

参加者: 25人



調査研究

大東諸島調査の参加者とテーマ

崎浜 靖 所員

「北大東島における歴史景観」

杉本信夫 特別研究員

「大東諸島の古謡とその変容」

韓国調査の参加者と研究テーマ

呉 錫畢 所員

「韓国泰安原油流出事故による環境汚染の現状」

田名真之 所長

「古琉球期から近世期における琉球-朝鮮関係史」

名城 敏 所員

「韓国扶余の自然環境」

上原 静 所員

「沖縄諸島における高麗系瓦の系譜研究」

儀間淳一 研究支援助手

「韓国における村落景観の基礎調査」



台湾調査の参加者と研究テーマ

兼本 敏 所員

「中国語教育における遠隔地教育の実態調査」

藤波 潔 所員

「19世紀台湾における諸列強との接触経験のあり方について」

福建調査の参加者と研究テーマ

上原 静 所員

「琉球列島における窯業技術の系譜について」

田名真之 所長

「琉球—福建交流史の研究」

崎浜 靖 所員

「琉球・福建交流史の研究—地理学の視点から—」

儀間淳一 研究支援助手

「中国福建省における民間信仰」



旧南洋群島調査の参加者と研究テーマ

大城朋子 所員

「旧南洋群島における言語接触の実態調査」

稲福日出夫 所員

「沖縄県人の郷土に対する思い」

兼本 敏 所員

「南洋群島における中国語教育の現状」

尚 真貴子 所員

「旧南洋群島の日本語教育の現状と課題」



南島文化地域学習での学び

副所長 井村弘子

(総合文化学部人間福祉学科)

南島文化研究所副所長となり、3年が経過した。所長はじめ所員の先生方、研究支援助手・職員の皆様方に支えていただき、ようやく任務を終えることとなった。この間、離島調査やシマ研究会、市民講座等、実に様々な活動が展開され、各種行事に参加させていただいた。特に、「南島文化地域学習」では、多くの学びを得た。

2012年度は「大学周辺・喜友名・大山(宜野湾地区)」、2013年度は「伊平屋村」、そして、2014年度は「国頭村・名護」を対象とし、その地域の「自然と文化」について、現地に出向き、所員や学外研究者の講師の先生方のわかりやすい解説を聴きながら周辺を歩いて回り、五感を働かせて観察することで、地域の自然・文化・歴史・景観等について、体系的に深く学ぶことができた。本学学生・教職員だけで



伊平屋村(クマヤ洞窟)

なく、一般の方々も参加して開催された地域学習は、いずれも盛況であった。

地質が違えば育つ樹木が異なる。川の流れ、水の湧き出る場所で、人の暮らしや集落のありようも変わり、発展する産業も景観も変化してゆく。

所員や学外研究者の先生方の、各地域の地勢、沿革、自然環境、遺跡・史跡、祭祀等にまつわる専門的な講話を拝聴しながら現地を歩き回る地域学習は、豊かな学びに満ちあふれた贅沢なフィールドワークである。

大学の「知」・研究成果を社会に還元する機会として、また、参加者の学びに応える活動として、「南島文化地域学習」が今後も継続していくことを願っている。



本島北部の地層断面

副所長を辞するにあたり、皆様方のご支援・ご協力に深謝いたします。ありがとうございました。

編集後記

南島研の所員として活躍してこられた稲福みき子先生、宮城邦治先生、江上幹幸先生が定年退職されます。長い間、有り難うございました。また、2012年4月から南島研の運営に携わってこられた井村弘子先生も他の役職に就くため、任期途中ですが副所長を退任されます。そこで井村先生にはコラムの執筆をお願い致しました。お忙しいなか有り難うございます。

そして、私も3月末で任期満了のため退職と相成りました。何かと至らぬ点多くご迷惑をおかけしましたが、皆様のご支援ご厚情により3年間勤めることができました。熱く御礼申し上げます。

4月から新しい顔ぶれになりますが、今後とも南島文化研究所を宜しくお願い申し上げます。(儀間)